

サンホセ日本人学校 AG 5 報告書①

2019.11.12

第 1 回遠隔会議にて

日程 2019 年 11 月 7 日 (木) 15:30~17:00

①取組評価レポート(方法・内容・準備事項、成功事例、課題点を含む)

第 1 回遠隔会議として、主にサンホセ校とアグアスカリエンテス校（以降アグアス校）の職員の初顔合わせ、そしてネット会議の接続のテストという位置づけでこの遠隔会議を行った。事前の準備として担当者同士の打ち合わせが挙げられる。10 月 5 日にアグアス校のコーディネーター藤枝教諭から研究計画をいただいた。そののち、本校で職員会議にてこの計画について検討し、本校の要望を挙げてアグアス校に送付した。本会議にかかわる部分では、「この会議が、児童生徒による『アグアスサンホセ顔合わせの会』に向けたものならば、そこで行うのと同様の活動をこの会議で行いたい。」と提案した。具体的には①学校紹介をバーチャル学校見学の形態で行うこと。②自己紹介をアイスブレイクの形で行うこと。この 2 点である。これについて、宝力と藤枝教諭で ZOOM を利用して打ち合わせを行った。そこから、アグアス校で再検討して大まかな流れを決定できたのが 11 月 1 日である。二校間の考えをすり合わせていくのに時間がかかることを実感した。

当日は、予定より少し早めの 15 時 25 分には大体の職員が ZOOM に参加できていた。開会の言葉、校長挨拶などは問題なく行えたが、自己紹介の場面になると、両校ともに、画面が動かなくなり、だれが話しているのかわからない状況になってしまった。このまま継続することは難しいと考え、お互いに接続しているパソコンの台数を徐々に減らしていくこととした。本校で 1 画面、アグアス校で 4 画面まで減らした段階でこの状況は解決した。同じ回線から同時にたくさんの参加者がビデオを利用すると処理しきれなくなるということが分かった。また、ハウリングもひどかったが、マイクの数減らしたことで落ち着いた。この間に 30 分ほどの時間を要した。これが子供たちが行う会議当日だったら・・・と考えたら非常に不安である。事前に不具合が確認できてよかった。

アグアス校の学校紹介は、ZOOM の共有機能を使っていた。流暢にパワーポイントが動いているので驚いた。これならばゲストティーチャー型の授業であればほぼ問題なく実施できることを実感できた。また、発表を聞いて、日本人学校としての共通点と相違点があることがわかり、とても参考となった。

本校が行ったバーチャル学校体験では、間の取り方やカメラワーク、やり取りの工夫など、まだまだ改善の余地があることが分かった。11 月 29 日に行われる「アグアスサンホセ顔合わせの会」に向けて改善を図っていく。以前から電波の弱いところでは回線が切れてしまうという心配があり、実際、予想通りの結果となった。設備面での弱点を改めて確認できた。しかし、この活動を通して、見学者からの質問に答えることができ、双方向でのコミュニケーションを行う楽しさと手応えを実感できた。

授業の実践報告では、アグアス校の「現地素材を使った授業紹介」についての話を聞くことができた。学校紹介と同様に、パワーポイントでの発表は違和感なく行えたので、今後お互いの研究内容の交流が非常に低いハードルで行えるということが実感できた。これを利用して、アグアス校の同学年をもつ教諭との交流を積極的に行えば、「単学級であるゆえに、学年の授業について相談する相手がいない」という課題を克服する一助となると感じた。

アイスブレイクでは、「一時帰国をするなら冬と夏どちらがいいか?」「出身は、東日本か西日本か」などといった質問をお互いにした。自分たちの興味のあることを聞いたり、体を動かして答えを紹介したりすることに交流することの楽しさや喜びを感じることができた。学校規模の違いなど、クリアしなくてはならない課題はいくつかあるが、工夫次第で双方向で楽しめる活動をたくさん開発できるのではないかと期待が持てたし、児童・生徒に工夫させるのも効果的だと感じた。

第1回目のこの会議を通して、通信面での課題が見えたとともに、創意工夫次第では新しい活動がたくさんできるという見通しが持てた。

②研修・授業風景の写真



アグアス・サンホセ 遠隔会議試行

15:20～15:30 児童生徒下校後、準備ができた先生から接続

15:30～遠隔会議開始

司会 棚澤

タイムテーブル

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| 1 開会のことば（サンホセ教務 宝力先生） | 15:30～15:31 |
| 2 校長挨拶（アグアス 藤本校長先生） | 15:31～15:33 |
| 3 各校職員自己紹介（アグアス→サンホセ） | 15:33～15:45 |
| 【名前・部会・学年・教科・年次】程度を簡単に（30秒程度） | |

校長・教頭・コーディネータ（藤枝）
研修部（棚澤・紺野・竹之木進・宮城）
授業部（川邊・太田・齋藤典）
レポート（鈴木・大宮・齋藤美）
環境（阿部・笹森）

サンホセ（7名）

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 4 学校紹介 | 15:45～15:55 |
| PowerPoint | アグアス（5分）担当：竹之木進・宮城 |
| バーチャル学校探検 | サンホセ（5分） |
| 5 授業実践報告 | 15:55～16:03 |
| アグアス | 棚澤（3分）笹森（5分） |
| 6 アイスブレイク研修 | 16:03～16:13 |
| サンホセ | （10分） |
| 7 指導講評（サンホセ 山本校長先生） | 16:13～16:15 |
| 8 閉会のことば（アグアス 庄司教頭先生） | 16:15～16:16 |
| (9 事務連絡) | |

(※実際は17:15分終了)

④職員反省から

- ・バーチャル学校見学のアイデアは大変よかった。撮影しながらアグアスの先生との一体感を感じることができた。ただ、どうしても時間差が生じてしまうので受け手の反応を待つことや送り手にも分かりやすい反応を返すなどの練習や手立てが必要になる。(どの活動にも共通することですが…)
- ・ただ発表を聞くだけよりも、バーチャル見学やアイスブレイクのようにやり取りをしながら進められた方が盛り上がるし、またやりたい！という気持ちになる。
- ・ぜひ、日々の授業のアイデアなども共有が図れるツールとして **ZOOM** を効果的に活用してみたいなと感じました。
- ・学年の先生同士でつながり、普段から気軽に交流したい。これが理想と考える。
- ・アグアスの先生方と顔を合わせながら話ができただけが何よりもよかった。実際に、顔を合わせて話し合いを進めることでしか伝わらないこともたくさんあるように感じる。手軽にコミュニケーションを図れるツールとしての **ZOOM** の活用も考えていきたい。

サンホセ日本人学校 AG 5 報告書②

2019.11.12

第2回遠隔会議にて

日程 2019年11月15日(木) 15:30~16:20

①取組評価レポート(方法・内容・準備事項、成功事例、課題点を含む)

今回の目的は、11月29日に行われるアグアス・サンホセ顔合わせの会と、1月22日に行われるアグアス・サンホセ交流会の流れについての確認が行うことであった。また、「ICTを利用しての遠隔会議が問題なく行えるか」「画面の共有を使って会議を進められるか」を試すことでもあった。

事前の準備に関しては会議の前に細かい打ち合わせをする必要はほとんどなく、アグアス校が作成した議事計画の通りに進めることができた。

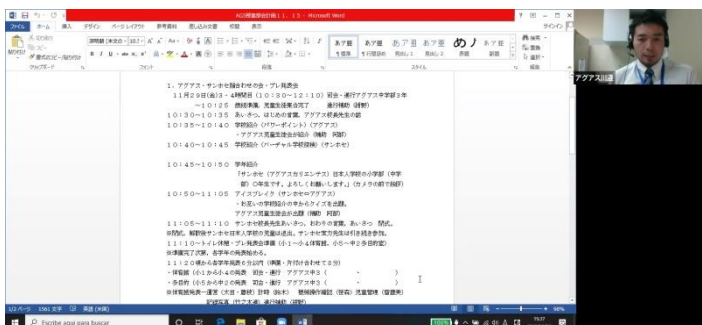
顔合わせ会については、それぞれの担当者から、どのような形で行うか、どんな点に注意してほしいかなど話し合うことができた。特に、自己紹介、バーチャル学校見学、アイスブレイクの部分について細かいところを話し合うことができた。アグアス・サンホセ交流会については、日程の確認、発表の順番、発表の方法の確認が行われた。

ネット会議の環境については、今回は問題なく行えた。カメラの数を制限し、イヤホンマイクを使用することでハウリングを防ぐことに成功した。中心となって話をする人たちがカメラを使って連絡するという方法で問題ないと感じた。

一方で、今回の会議を通して、違和感ややりづらさを感じた。1つ目の理由は、司会者に「質問や意見を」と言われたときにどう反応したらよいか戸惑ったことである。みんなに見られている状態で学校の代表として意見を述べることに抵抗を感じた。2つ目の理由は、画面に映らずにいる人たちがどう思っているかがわかりづらいということである。画面に映らず、言葉も発しないが、それでもそこに居る人たちがいることを意識してしまうため、やりづらさを感じた。また、その反面、カメラに写っていない人たちは意見が言いづらいであろうということも感じた。

1月23日に行われるアグアス・サンホセ交流会の後に、全体での事後検討が行われるので、それまでに、どうすればより効率的で気持ちがよい会議になるかを考える必要があると感じた。

②会議の写真



アグアス・サンホセ 遠隔会議

◎交流会実施計画案作成会議（プレ発表会11/29、アグアス・サンホセ発表会1/22）

15:20～15:30 児童生徒下校後、準備ができた先生から接続

15:30～遠隔会議開始

※接続について（前回遠隔会議試行を踏まえて）

- ・カメラ：オフ マイク：オフ スピーカー：イヤホン接続
- ・質疑等で話をする際に、カメラ・マイクをオンにしてください。
- ・出番が多いであろう「藤枝」「川邊」「棚澤」はカメラをオンにしたままの予定です。

司会 アグアス 棚澤

- 1 開会のことば（アグアス 庄司教頭先生）
- 2 校長挨拶（サンホセ 山本校長先生）
- 3 11月29日（金）プレ発表会について（アグアス 川邊先生）
- 4 プレ発表会 質疑
- 5 1月22日（水）アグアス・サンホセ交流会について（アグアス 川邊先生）
- 6 アグアス・サンホセ交流会 質疑
- 7 事務連絡（アグアス 藤枝先生）
今後の予定
当日の接続について など
- 8 指導講評（アグアス 藤本校長先生）閉会のことば（アグアス 庄司教頭先生）
- 9 閉会のことば（サンホセ教務 宝力先生）

④職員反省から

- ・特に反対意見もないので計画通りに終わった。資料を読んでわかる内容ならば全職員での会議は必要ないし、お互い確認事項を述べ合うのであれば、代表同士だけでよい。
- ・顔出ししている人しか参加していないような感覚になるため、なんとか全員の顔を写せないか。P C 1 台に 2 ～ 3 人いて良いと思う。
- ・顔を出していない人たちの考えが全く読み取れないため、意見を言う場面は非常に不安がある。同時に、顔を出していない人たちは意見があっても言いづらいのではないかと感じた。
- ・少人数であれば、「質問や意見はありますか？」と聞かれて即答で「ありません」と答えられるが、大人数になれば、「誰か質問があるかもしれない」と勘ぐってしまうため、発言に抵抗を感じた。
- ・自分個人の意見が、本校の総意ととらえかねないと思ったため、発言することを躊躇してしまった。
(「例えば、こんな方法はどうですか～」などと気軽には発言できない雰囲気)

サンホセ日本人学校 AG 5 報告書③

2019.12.9

アグアスサンホセ顔合わせの会にて（プレ発表会）

日程 2019 年 11 月 29 日（金）10:30～1130

①取組評価レポート(方法・内容・準備事項，成功事例，課題点を含む)

アグアスカリエンテス校が行うプレ発表会の前段にこの集会が行われた。初めて子どもたちが ZOOM を使ってコミュニケーションをとる活動となった。事前の準備で行ったのは、数回のアグアス校との打ち合わせである。これに関してはコーディネーターだけではなく、職員全員参加の遠隔会議で議題に取り上げることで、全体での周知を図ることができた。報告書①②にもある通り、遠隔会議①で、学校紹介、バーチャル学校探検、アイスブレイクを行ってみて、課題点や改善点を確認した。遠隔会議②では改めてこの日の活動の流れの確認や、細部の確認を行った。そうして迎えた当日であった。

顔合わせの会では、アグアス校の中学部の生徒の進行のもとにプログラムが進められた。学校紹介では、アグアス校の学校生活や行事についての話を聞いた。子供たちからも「同じ日本人学校として似たような部分と、違う部分があることが分かった」「写真を見て人数の多さに驚いたり、現地校との交流があることについては同じだなと感じたりした」という感想を得られた。

本校の行ったバーチャル学校探検では、設備面でもうひと工夫が必要であることが分かった。カメラとマイク・スピーカーが内蔵されているタブレットを利用して行ったが、内臓のマイクでは発表者の声が聞き取りづらかったようだ。そのことも十分に予想した上で練習を重ねて挑んだ取り組みであったが、児童の声の大きさや話すスピードについての指導はまだまだ改善の余地があることが分かった。アグアスからの質問に対して答えるという場面もあり、双方向のコミュニケーションをとるという目的は達成できた。

学年紹介では、全員が発表にかかわることができたのがよかった。これをきっかけとして、次年度は、学年ごとの交流を深めることができるとよいと感じた。また、カメラに近づいたおかげで、一人一人の表情がよく読み取れた。それぞれの学級の雰囲気も感じ取ることができた。

アイスブレイクの活動では、職員室で行ったような、みんなで楽しくワイワイと参加するような活動が十分にできなかった。人数の多さが原因と考えられる。あちらからの問題に関しては、二択のクイズ形式をとっていたので、本校の児童は全員が参加する形をとれた。ただ、目的は双方向のコミュニケーションを深めるところにあるので、内容や方法に関してまだまだ工夫の余地があると感じた。

今回の活動を通して、子どもたちは、今後、ZOOM という新しいツールを使って学習をしていくこと、そして、アグアスカリエンテス校と交流していくことについて興味と関心を持つことができた。これをきっかけとして、今後も多くの人たちと関わらせたり、多様な学習の機会を与えたりすることができると考える。

②研修・授業風景の写真



アグアス発表者



アグアス藤枝



サンホセ日本人学校



アグアス庄司幸三



サンホセ日本人学校

③研修資料

アグアス・サンホセ顔合わせの会について

2019. 11. 15

1. ねらい

- ・アグアス・サンホセ交流会を見越した全校児童生徒による集会の接続状況を確認める。
- ・初めての顔合わせの場として相互理解を深めさせる。
- ・ICTを利用して、コミュニケーションすることの楽しさを感じさせる。

2. 日時

- ・11月29日（金） 3時間目（生活・総合）
場所 サンホセ日本人学校講堂

3. 事前準備と役割分担

- ・自己紹介の練習（学級ごと）
- ・学校紹介（バーチャル学校見学）の練習（執行部）
- ・アイスブレイクの計画・準備
- ・機器の準備と整備

4. プログラム計画

- 10:20 児童生徒、自分の椅子をもって講堂集合 接続テスト
- 10:30 アグアス・サンホセ顔合わせの会 開式
- 10:30 あいさつ、はじめの言葉
- 10:31 学校長あいさつ（アグアスカリエンテス校）
- 10:35 学校紹介（アグアスカリエンテス校）
- 10:40 学校紹介（バーチャル学校探検）（サンホセ校）
- 10:45 学校紹介 アイスブレイク
- 11:05 学校長あいさつ（サンホセ校）
- 10:10 終わりの言葉、あいさつ、顔合わせの会 閉式

※以降宝力のみ続きを参観 他の職員、児童・生徒は4時間目の授業

5. 役割分担

- | | | |
|------------------------|-----|-------|
| ・学級事の自己紹介の練習・指導 | ・・・ | 各担任 |
| ・学校紹介（バーチャル学校見学）の練習・指導 | ・・・ | 宝力 |
| ・アイスブレイクの計画・準備 | ・・・ | 宮本 |
| ・機器の準備と整備、動作確認 | ・・・ | 宝力 下重 |
| ・反省集約、事後レポート作成 | ・・・ | 宝力 |

6. その他

- ・機会があれば、テレビ会議アプリを使った発言・発表に慣れさせておいてください。

④職員反省から

1. 日程・準備について

- ・アグアスとの時差もないこの時期でよい

2. 環境整備や機器の操作について

- ・パソコン、テレビの方のマイク・スピーカー・カメラについては問題を感じることはなかった。こちらの全体の映像も明瞭に写せた。
- ・バーチャル学校探検で使ったタブレットについては、マイクで声を拾うのが不明瞭だった。外付けマイクを利用するなどの工夫が必要。
- ・コスタリカの生徒がバーチャルで映しているときに、在校生はサンホセ・アグアスどちらの音も聞きづらかった。(音量が上げられないため)

3. 内容について

- ・相手の人数が多いのもあり、職員で行ったような和気あいあいとした双方向の交流活動が難しかった。
- ・アイスブレイクはクイズを出し合う形になってしまった。本来の双方向交流を目的とすると十分に達成はできなかった。今後の課題となる。

4. 今後の課題やアイデアについて

- ・マイクで声を拾えるようにするなどの環境面での支援のほかに、マイクを意識して話すなどの児童への指導支援も充実していけるとよい。
- ・現段階では、互いに何かを伝え合うような活動であるが、今後サンホセとアグアスの児童たちが協同して課題を解決できるような場を設定していけると遠隔授業として一体感が生まれてくるのではないかと思います。

サンホセ日本人学校 AG 5 報告書④

2020.2.27

アグアスサンホセ交流会

日程 2020 年 1 月 22 日（水）13：00～14：55

事後検討会

日程 2020 年 1 月 24 日（金）15：20～16：00

①取組評価レポート(方法・内容・準備事項、成功事例、課題点を含む)

令和元年度の AG5 の取り組みの総まとめとしてこの「アグアスサンホセ交流会」が行われた。2019 年 11 月に行われた顔合わせの会から数えて 2 度目の交流となった。お互い、前回の反省を活かしながら、相手によく見える位置取りを考えたり、聞き手を引き付けるような発表を工夫したりすることができていた。

事前準備としては他の資料にあるように ZOOM を利用した遠隔会議を通して、各学年の発表についての細部の確認や調整を行った。児童には、カメラの先にいる相手を意識した発表をするように指導をしてきた。学年どうしでお互いに感想を言い合う時間があるということも伝えておいた。

交流会では、本校 1 年生はコスタリカに来てからどんな風に生活が変わったか、どんな体験ができたかを中心に発表をした。発表内容に合わせてスライドを出していたのだが、相手に共有画面がうまく届かなかった。担当者からスマートフォンへの連絡があったのだが、気づかずに対応することができなかった。結局発表が終わってから、不具合に気が付くという事態になってしまった。相手の発表を遮って不具合を伝えることはなかなか難しいことなので、そういう場合の合図を決めておくことが大切だと感じた。これに関しては今後の反省としていかしていきたい。

2 年生は、国語の学習「様子を表す言葉」の単元に合わせて、様子をどう表したらよいかアグアス校の 2 年生に相談するという形での発表を行った。カリブ海の透明な水を例えるには、「ペットボトルのように透明」「ダイヤモンドのように透明」「ガラスのように透明」のどれがふさわしいかを挙手で答えてもらっていた。3 択だと答えやすいようで、反応も良かった。

3 年生は、コスタリカにいる有名な鳥「ケツアール」についての紹介をした。ケツアールの尾羽が長いことをイラスト・模型を用いて発表した。実際に見て感動したこと、その後調べてみて分かったことを伝えることができた。

4 年生は、コスタリカの生活で気が付いた挨拶の大切さについて、6 年生は、サンホセ日本人学校の生活を振り返ってみて考えたことをそれぞれ紹介した。アグアス校の生徒には「メキシコでも挨拶をたくさんしてくれるので僕も挨拶を返したい」「話を聞いて、サンホセのみんなは仲がいいことが分かった。」など共感を得ながら聞いてもらえることができた。

今回の活動では、大勢の同世代の子どもたちに向けて発表すること、そして、その子たちの活動を見させてもらうことができた。これは普段、人数の少ない環境にある本校の児童にとって貴重な体験となった。次年度も引き続きこの活動を続けていく中で、サンホセ日本人学校だけではできないことをどんどん体験させ、コミュニケーション力や広い視野を身につけていきたい。

今回の事後検討会は、お互いに 1 画面ずつのビデオ会議の形式をとった。以前、多数の画面を使つての会議を行ったときは回線が重くなってしまったことがあったので、その対策として、この方法を

行ってみた。アグアスの方はやや手狭そう様子ではあったが、本校は人数的にもちょうどよいカメラアングルで会議の場を設定することができた。用意したマイクスピーカーシステムは非常に快適で、これ1台を設置するだけで、音もよく聞こえたとし、こちらの声もきちんと拾っていた。今後もよりよい会議、研修の形式を模索していきたい。

②研修・授業風景の写真



③研修資料

アグアス・サンホセ交流会について

1. ねらい

- ・自分たちの学習の成果を効果的に相手に伝えるための力を育成する。
- ・ICTを利用して、コミュニケーションすることの楽しさを感じさせる。

2. 日時

- ・1月22日（水） 5・6時間目（生活・総合）
- ・場所 サンホセ日本人学校講堂

3. 事前準備と役割分担

- ・作文発表の準備

4. プログラム計画

- 12:50 児童生徒、自分の椅子をもって講堂集合 接続テスト
- 13:00 アグアス・サンホセ交流会 開式
- 13:01 あいさつ、はじめの言葉（アグアスカリエンテス校教頭）
- 13:05 アグアス小学部1・2年生発表
- 13:13 サンホセ日本人学校1・2年生の発表
- 13:22 アグアス小学部3年生の発表
- 13:30 サンホセ日本人学校3年生の発表
- 13:35 感想発表タイム（1～3年生）
- 13:40 休憩
- 13:50 アグアス小学部4年生の発表
- 13:58 サンホセ日本人学校4年生の発表
- 14:03 アグアス5年生の発表
- 14:11 アグアス6年生の発表
- 14:19 サンホセ日本人学校6年生の発表
- 14:27 感想発表タイム（4～6年生）
- 14:32 アグアス中学部1年生の発表
- 14:40 アグアス中学部2年生の発表
- 14:46 感想発表タイム（6年生）
- 14:50 終わりの言葉（サンホセ日本人学校校長）

5. 役割分担

- | | |
|----------------|---------|
| ・作文指導 | ・・・ 各担任 |
| ・機器の準備と整備、動作確認 | ・・・ 下重 |
| ・反省集約、事後レポート作成 | ・・・ 宝力 |
| ・写真撮影 | ・・・ 宝力 |

令和元年1月13日

AG5研修部担当

アグアスサンホセ交流会事後検討会

※今回の会議は『多目的室』で行います（個人PCを使用せず全体で1台）。

15:20～15:30 児童生徒下校後、準備ができた先生から多目的室へ。

15:30～遠隔会議開始

司会：アグアス 棚澤

- 1 はじめのことば（サンホセ宝力先生）
- 2 各校から発表会を実施しての感想・反省（アグアス→サンホセ：各担任・担当から）
○自校（担当学年）の発表・相手校の発表について
- 3 諸連絡
- 4 指導講評
アグアス 庄司教頭先生

サンホセ 山本校長先生
- 5 おわりのことば（アグアス 藤枝先生） 4 諸連絡

④職員反省から

1. 日程・準備について

- ・交流日、時期の検討。互いにメリットのある交流日にできればしたい。
- ・全校での交流であればメキシコがサマータイムではないこの時期が適切。学級単位での交流ならば融通は利くと思う。

2. 環境整備や機器の操作について

- ・PC 操作、進行補助、カメラワーク、記録等、担当者を決めるとよい。

3. 内容について

- ・今回は、学校行事に合わせた無理のない取組にした。交流を推進するのであれば、内容は進化させたい。であるならば、校内の学校行事等も見直す必要もあるが、日本人学校の性質上動かしにくい部分がある。総合的な学習の時間を使う時間数はほぼ決まっているという現状。

4. 今後の課題やアイデアについて

- ・授業で行うなら、各学年。遊びで行うなら小規模同士。朝の会や帰りの会などで楽しく続けることも。どちらにせよ、授業交流が目標であるならば積み重ねを行いたい。
- ・クイズでの答え方を統一するとよい。今回は挙手、指での数字などいろいろあった。